つね子さんと兎

野口雨情

青空文庫

ある日、つね子さんが、いつものやうにお庭へ出て、

兎来い　兎来い
赤い草履(ぞんぞ)買つてやろ

兎来い　兎来い
赤い簪(かんざし)買つてやろ

兎来い　兎来い
ぴよんこぴよんこはねて来い

と、『兎来いの唄』をうたつて遊んでをりますと、
『今日は、今日は』と云つて一疋の子兎が来ました。
『まア　お前は子兎ね』とつね子さんが云ひますと、
『さうです。わたしは子兎ですよ。あなたのお唄が聞えたので参りました』
と子兎はなつかしさうに云ひました。

『あら、わたしの唄が聞えたの。お前のお家は何処なの』と訊きますと、『わたしのお家ですか。ほら、お月さまの中にお餅を搗いてゐるでせう。あれはわたしの伯父さんなんですよ。わたしのお家も矢つぱりお月さまの中なんですが、『兎来いの唄』が聞えたので、どうかしてゆきたいと、やつとのことで此処まで参りました。』

『お月さまの中まで唄が聞えたの。』

『そりやアもう、手にとるやうによく聞えますよ。わたしのお友達は皆な真似てうたつてをりますもの。』

『さうなの』と、つね子さんは大へん感心をしまして、赤い鼻緒の草履と赤い花簪とを買つてやりました。子兎は赤い鼻緒の草履をはいて、赤い花簪をさして嬉しさうに、

生れて　初めて
赤い草履はいた

生れて　初めて
赤い簪さした

お月さんの国へ　もう帰らずに

ここのお庭の兎にならう。

と、うたひました。つね子さんも、

お月さんの国へ　もう帰らずに
ここのお庭の兎におなり

草履(ぞんぞ)切れたら
また買つてあげよう

赤い簪(かんざし)
また買つてあげよう

と、お庭中うたつて歩きました。子兎もつね子さんの後について、お庭中うたつて歩きました。

そのうちに、日が暮れて、夕(ゆふべ)のお月さまが東の空からあがつて来ました。

『わたしのお友達が此方(こつち)を見ながら大きな声でうたつてゐるから御覧なさい』と、子兎がつね子さんに云ひました。つね子さんが耳をすまして聞きますと、

つね子さん　ありがたう
赤い草履（ぞんぞ）　ありがたう

つね子さん　ありがたう
赤い簪（かんざし）　ありがたう

お月さんの国へ
遊びにおいで

と、お月さまの中で大勢の子兎がうたつてゐる唄が、ほんたうに微（かすか）に聞えました。

青空文庫情報

底本：「定本　野口雨情　第六巻」未來社
　1986（昭和61）年9月25日第1版第1刷発行
底本の親本：「小学女生」
　1921（大正10）年9月
初出：「小学女生」
　1921（大正10）年9月
入力：林　幸雄
校正：今井忠夫
2003年11月24日作成
2016年2月7日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

つね子さんと兎

野口雨情

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/